

# 雑記抄

## 重みのある言葉

九月号に引き続き、「成る程」と独り合点も甚だしい限りで。だが、気になり出したら止まらない癖を平にお許しいただきながら…。

● 本当に：北京五輪一色の夏に飛び込んできた日本選手と家族の言葉、

- 本当にうれしい金・銀・銅
- 本当に良かったメダル
- 本当に世界一の孫
- 本当にありがとう。(応援と援助と助言のおかげ)
- 本当に残念。欠場の冷酷さと出場の残酷さと練習の過酷さ
- 本当に幸せ、メダルを持ち帰れて、

● 本当に悲痛な野球、悲願のソフト、そして悲鳴を上げない選手等々、「本当にの連発」が強烈な日々であった。

● そもそも、本当とは「ほんとは」と、ほんもの、真実であるから、嘘や偽りや見せかけではない事・様

であり、正に心身共に努力と継続の選手その人である。本当に必要な豊かさをありがとう、選手の皆さん。

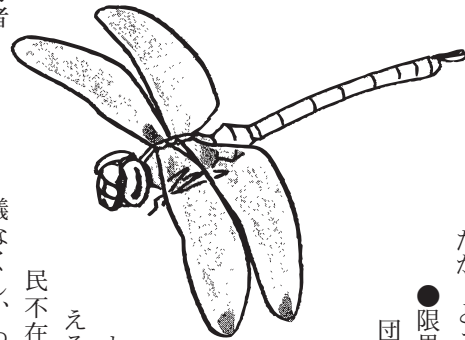
● 金さんが金：悲願の金メダルを手に笑顔を見せる金由起子選手。

● 八月に松山市で行われた女子野球W杯で悲願の初優勝に輝いた日本代表の主軸が金さんなのである。

● 九月七日付の新聞

で、全6戦に出場、4番打者が敬遠された5番打者の重圧から「食事を取るのもやっとなかった」と明かされたが、願いはこれをきっかけに女子の硬式野球が増えることで、その決意の程が胸に迫るのである。

● 隔年開催のW杯で2度目の出場を果たして初優勝した「金さんが



「金」なのだから、スゴイのひとつに尽きる。どんな試合でも優勝することは大変なことであり、これがW杯となれば言うまでもない。女子選手の躍進が素晴らしいこのころ、「主軸の躍進 金たたえる」というスポーツ記事の一面は小さいが、その実績は大きい。

● 限界：限界はやりとら、いい加減なことを言うなどの声も。だが、どっこい、

● 限界自治：赤字再建団体とか財政破たんとか、とにかく

● 限界がつくと本当に大変なこと、村が町が市がしかも国までがとなると、それぞれが抱える財政悪化は「住民不在や無人化」を余儀なくし、ついにはゴーストタウンとなるのである。

● 限界集落：七月の広報（ストツプ・ザ・限界集落）でも要約したが、過疎が「雑多な負」を増大させる限界集落にも更に注視すべきである。

● 限界地球：正しくは「地球社会

● 限界点に突入」で、山本武信阪南大教授は生産・消費の転換が急務とし、「成長の限界などは理論上の仮説にすぎない。また限界は遠い将来のこととしてきたが（中略）、地球が自力でやっていける範囲は限られているという現実が鮮明になった。

● 七月の北海道洞爺湖サミットでは温室効果ガス排出量50%削減の長期目標を確認したが、地球の体力や寿命を考えるとホスピタリティ的視点（地球の末期を見とる）が必要である。

● 人間も地球も有限。一人一人が地球市民というシンプルライフの実践（命や物を大切に）が求められ、自足なくして地球に未来はない。

● と述べられている（以上要約）。やや固い話になったけれど、限界そのものの尺度や範囲を考えたときは難しさが先立つようである。

● 虫の声九月から青い空十月になって「重みのある言葉」をつまみ出したが、さて、町の風はどうだろうか。

(前) 中央分館長

尾池隆男